

笑顔の子どもたち

大泉町 高橋 勝孔

小・中学校の子どもたちの環境は「それ、どうなってるの」と疑問が多いと思うのは、私だけでしょうか。「環境が悪い」と一言では言えないものがあります。

1.家庭環境、2.地域環境、3.学校環境と三位一体の活動が必要だと考えます。県の教育委員会でも「群馬は、こうします」と3つの総合的施策を設定し完全学校週5日制の全面実施に伴い、「子どもを育てるなら群馬県」のスローガンの下、総合的に進めている事をお聞きいたしました。「生きる力」を中心に「確かな学力」「豊かな人間性」そして「健康・体力」の3つの側面に沿ってバランスのとれた内容で実践していく計画だと理解いたしました。すばらしい内容ですが如何に実現することが出来るかが課題と考えます。

そこで「群馬は、こうします」の総合的施策の一助になればと思い、家庭・地域・学校の「環境改善」について、述べてみたいと思います。

1.家庭環境

子どもの環境改善は「家庭から」ではないでしょうか。即、「改善」していただきたい事は「子どもをほめる」ことです。毎日の生活の中でお母さん、お父さんは直ぐ「バカ・グズだらしない」等々、子どもたちを叱ることが多いけれども、どれだけ「ほめる」ことをしているでしょうか。躰は学校ですと思っている家庭がほとんどの様に思います。昔から親の背中を見て子どもは育つ、とよく言われていますが、このことを各家庭で実施することだと思えます。子どもを「ほめる」ことで「生きる力」がどれだけ湧いてくることでしょうか？

私の経験したことで、「祖父母と一緒に住む家庭」と「父母だけの家庭」では「環境」に違いのあることが分かります。家庭の状況にもよると思いますが、幼稚園・小学校・中学校等の生活過程で大きな変化が起きます。それは「やさしさ」とか「いたわり」の心が自然に生まれ育つことです。そこには「いじめ」とか「意地悪」な心が起きないのです。学校の先生も家庭で「ほめる」事を含め、学校懇談会等を利用して「家庭でもこども環境」について積極的に進めていただきたいのです。経験から具体的に「良い環境」になること間違いありません。学校と保護者のパイプを太くし、是非「ほめる」事を通じて「生きる力」を与えてあげて「笑顔のある子どもたち」に育ててほしいものです。

もう一つの「家庭の改善」としては、お父さんの参加が不可欠なことです。子どもをお母さんまかせにしないこと。幼稚園・小学校低学年がいちばん多感な時期ですので、お父さんお母さんが「スキンシップ」をしながら子育てをし「笑顔のある家庭」を作ることです。どうしても、お父さんは仕事の忙しさを理由に、お母さんまかせになりがちです。またはお父さん・お母さん共に忙しく他人まかせになる事もあります。それを学校にまかせる保護者等とんでもないと思います。今まさに、その傾向が強くなりつつありますが、思うは私だけでしょうか。家庭でお父さんの存在が無くなりつつあります。家庭は子育てのために共同作業なのです。父母はたまには「子どもの目線で物事を見る」事も必要だと思います。多感な時期の子育ては容易ではありません。だからこそ両親の共同作業で「良き家庭環境」を造ることです。そこには学校の協力も必要で、学校参観は父親参観を是非作

っていただき自分の子どもが学校でどのような生活をしているか、父親の目で確かめてもらうべきです。また、先生と父親との懇談を通じて子どもの教育に携わることを進めてもらいたいと思います。もちろん、母親の参加は日常的に行われていると思いますが、半年に1回は父親参観を日曜日に実施してほしいです。父母・祖父母が参観する事で子どもたちは大変意識するものです。そして大いに「家庭環境」を改善する意見交換が必要だとも思います。また、両親の子どもに対する「耳」を持ってもらいたいと思います。それは「聞く耳」です。子どもの考え・悩みを聞く大事さを忘れてはいないでしょうか。自分の子どもは大丈夫と思っている保護者が多いように思います。忘れかけた「聞く耳」を日常的に持つ様な機会を学校で作り指導することも必要だと思います。保護者に気がつく機会を作っていただきたいのです。

2.地域環境

最近では地域での活動に子どもが参加する機会が大変少ないと思います。実際にどのようにしたらよいか、具体的に地域と家庭をどのように結びつけるか。目的がよく分からないのではないかと思います。保護者はともすると幼稚園・小学校・中学校と進むにつれ、塾通いに忙しく、子どもの将来の事のみ考えている様に思います。確かに大事な事ですが、もっと大事な事を忘れています。勉強をするだけでは片手落ちになります。人生の中で、社会に出て「何が大事か」を思い出してもらいたいと思います。人生は一生勉強です。

目的は「良き友達を作る」「社会に貢献する」ことだと思います。これは家庭でも学校でも出来ないのです。今の子どもは「夢」をどの程度持っているのでしょうか。大変失礼ですが、「将来の夢」を家庭や学校がどれだけ確認しているのでしょうか。最近では将来を悲観し、生きる希望をなくし「生命」を絶つ子どもが多いと思いませんか。「夢」「生き甲斐」を失い「生きる希望」が無くなった子どもがそうさせているのです。誰にも「悩み」を打ち明けられず「相談」もできずにいる子どもが多いと思います。そこにはお父さん・お母さん・先生ではなく「良き友達」がいるかなのです。そこに「地域活動」が生きてきます。

学校の生活は横生活「同級生同士」の関係が強く、縦の関係が薄くなりがちです。その点「地域活動」は同級生より上下関係のつながりがみられます。この上下関係を通じての生活が、「人間関係」や勉強では出来ない「生活の知恵」などが生まれ、「良き友達を作る」「信頼関係」ができます。子どもたちの先輩・後輩の良い関係ができ、「リーダー」育成の活動になり、大きく子どもを育てる「環境」ができます。ここに「家庭と地域」のつながりを見つけ「良き友達を作る」、そして生きるために「夢」「希望」を持つ機会を多く作ることで、そこに「子どもたちの笑顔」が生まれ育つのです。

それではどのような具体的活動をすればよいのでしょうか。簡単な方法から取り組めばよいと思います。最初は夏休みの期間中に地域の「育成会・青少年健全育成協議会」等の行事に取り組んでもらい、協力関係を作り地域に積極的に父母が参加できる環境を作ることです。例えば、夏休みは運動関係を中心とした「夏休みキャンプ大会」等。「育成会」の役員と子どもの代表「リーダー」が計画・準備を進め、実際に実施する時は親も必ず参加し自分の子どもの活動を見守ることだと思います。実施は「リーダー」を中心に活動させることが大変大事です。どうしても手を出す時は「危険」と思われる場合のみとして、運営や行動は「リーダー」を中心にすべてまかせることです。それが子ども育成となり、将来の良き「人間関係」を作る基礎を築きます。また冬休みには文化行事を予定し「育成

会」と相談し、幼稚園・小学校低学年・小学校高学年などにグループ分けし、合唱や遊戯等を計画・実行することを進めます。この時に世代間交流も同時に実施したいです。子ども「リーダー」の育成を必ず考えてもらいたいと思います。子どもたちはもちろん両親の参加も考えて実施することです。この子ども「リーダー」を育てることは、結果として「自信」「誇り」そして「まとめる」力をつくり、低学年の子どもたちが「リーダー」の行動力・指導力を見せる事で子どもに将来の「夢」や「希望」を持たせ「笑顔の子どもたち」を育てることになるのです。

特に実施する時の注意点は計画より「リーダー」となる子どもを大人と一緒に参加させ、子どもが計画・実施したという「自信」を持たせる事が大変大事なことです。地域活動は学校週5日制になり土曜日・日曜日、毎週2日休みですので、県教育委員会でも検討されていますが、地域活動をどの様に進めるかです。地域と学校とのつながりを積極的に取組むことで、「地域の活動」を「人間形成の場」として「きめ細か」に計画・実行し「地域環境」の改善と「家庭環境」の改善をする事が大変大事な取組ではないかと考えます。

また地域に「悩みなんでも相談」、ホットラインを設け子どもの「悩み」を受付出来る体制を作ることも地域の役割だと思っています。その体制ですが、小学生は中学生が受け、中学生の「悩み」は高校生が受ける体制です。子どもは子ども同士で「悩み」を打ち明けることが大事だと思っています。「僕は君と同じ頃はこんな様に思ったよ」と返事をしてあげる体制が「思いやり」「癒す」につながり、悩んだ子どもは安心すると思います。そこに子どもの家庭での「笑顔」、地域での「笑顔」が生まれ、楽しい環境が育つと思います。

3.学校環境

私は県東部地区の大泉に在住していますが、昨年10月に邦楽の教育を大泉町立北中学校で始めて実施いたしました。最初は邑楽郡の先生方の研修会が北中学校で開催されますので、是非音楽研修の場で、「邦楽教育」をとの話があり引き受けました。これは音楽の先生が積極的に取り組む姿勢を示さないと中々出来ないことです。その「邦楽教育」で学んだことは子どもたちの「目」が輝いていることです。生徒にとって初めての教育だったかと思いますが、大変感激した記憶があります。その後、今年2月(3学期)に1~2週間毎に大泉町立北・西・南各中学校の「邦楽教育」を各クラス別に1時間の授業を組んでいただき実施いたしました。全部で37クラスの教育でしたが、そこで感じたことを簡単に述べてみますと、「邦楽教育」で教育時間が1時間しかなかったが、邦楽「三味線」「尺八」に興味を持った生徒が多くいたこと、「邦楽教育」の時間調整が難しそうだったこと、一般社会人教育の実施で教室内の雰囲気に変化があったこと、生徒が廊下を歩いていて私に元気に挨拶をしたこと、時々クラス担任の先生が見にきたこと、「邦楽教育」に音楽の先生だけでなく、他の先生方も気にかけており、職員室の中も変化があったこと等ではないかの感じました。

そこで学校とは何か、と問えば簡単にいうと「子どもの勉強する場」、「先生の仕事場」、職業がら、先生となる方は大学を卒業すると直ぐ「学校」という職場に配属されます。現在、見直しされつつある様ですが、まず「人間形成」をする必要があると思います。学校でも基本は子どもたちの「人間形成」です。そこに大学卒業した新人の先生方が社会生活の未経験の中で「学業」を進めることはどうか、疑問ありと考えるのは私だけではないと思います。県教育委員会でも研修を実施されるようですが、私は2項目提案いたします。

1. 新人職員を1～2年間、社会を経験してからにする。経験場所は 市役所 公民館 図書館 文化会館等、一般市民利用の公共施設で経験をすることで、社会組織・市民の考え等、いろいろ知り一般的「知識」「常識」を学ぶこととなります。その経験が「授業」の中で話題を多くもち、子どもたちと接することになり幅の持った各授業が、子どもたちにとって「楽しい学校生活」につながります。また先生の余裕のある授業にも関係がでてきます。先生方にどの程度、余裕があるか分かりませんが、余裕がもし無ければ、子どもたちにも当然影響が出てくることになると思います。「人間形成」となる「授業」は、子どもたちにも「楽しい学校」だったと言われる様に先生の経験をいたるところで話し、話題豊富な「授業」をすることだと思えます。その「授業」に生かして頂きたいと思えます。先生方の「生き甲斐」となり、子どもたちは「楽しい学校」となることでしょう。また研修期間中は1～2回/年は経験内容を報告することも必要です。

2. 「新人先生」と校長先生・教頭先生始め「諸先生方」との取組です。新人先生方の「斬新なアイデア・提案」を「意見」として採用することを進めたいと思えます。是非共「新人先生方のやる気」の「芽」をつぶさないように考えていただきたいのです。ここに学校内の「工夫・改善」が必要です。指導要項のある中で如何に「改善」を図るかです。「特徴ある学校」を進めてほしいと考えます。小学校で6年間、中学校で3年間と大変な時期、学校生活をします。9年間の中で如何に「楽しい学校生活」をするかだと思えます。太田市では「公立学校」での授業を「英語」の一環授業するとお聞きしています。これも特徴ある学校としての典型的な方法かと思えます。先生方に前向きな姿勢が見られますと子どもたちにも大変影響があります。私の「邦楽教育」も先生が積極的に取り上げないと子どもたちに「教育」が出来ませんでした。何か「特徴のある教育」を子どもたちの前で実施することが大事と考えます。そこに一つの「工夫改善」が必要なのです。当然学校全体の協力が不可欠です。先生1人ではできません。そこに「改善」「やる気」を取り入れる環境がほしいのです。アイデアは突然生まれません。常日頃より気にかけているんな角度より見て検討したいのです。新人と先輩の先生方の「チームワーク」を作ることです。新人先生の「芽」を生かすことです。当然学校には方針があり、それに沿って「教育」がなされると思えます。社会は毎日変化しています。学校も世の中のこの変化についていくことも必要ですし、方針の中でも、そこに「改善」を積極的に取り入れる環境が必要ではないでしょうか。「やる気」は大変大切な学校改善の「テーマ」と考えます。

具体的に実施してほしいことは 社会人の特別講師を採用する方法 季節的に特徴的な講師「動物の扱い方」「農業・工業経験者」の採用 社会的地位のある講師「お寺の住職」の採用など、如何に特徴を持たせ、変化のある「楽しい学校」にし、子どもたちの「個性」を生かした「教育」を実現するかではないでしょうか。

結論は最初にも述べましたが「家庭環境」「地域環境」そして「学校環境」の三位一体の中で、如何に「良い友達を作る」「人間形成」をするかだと考えます。「環境」を大事にしそのなかに特徴のある「教育」を実現し、それぞれ「家庭」「地域」「学校」の協力関係を持ち、「個性」を伸ばしてあげることが必要です。子どもたちの「個性」は皆違いますし、その違いをどのように生かすかが「教育の原点」でもあると思えます。また保護者と学校の結びつき「家庭内の理解」と「学校内の理解」を共に積極的に進めたいと思えます。「子どもたちを育てる」には「社会の一員」として「見る目」です。今

まで実施してきた「教育」は本当に良かったのでしょうか。ここ10年間子どもたちに「どのような変化が見られましたか」または「見られなかったか」良かった点は積極的に進めたいと思います。また改善点、反省する点があれば具体的に「このようにする」と見本を示し「アイデア」を各学校単位で「特徴ある提案」をさせ、個性ある「生きた教育」に期待いたします。先生方も現場で大変ご苦労されていますが、結果が「実のあるもの」となる様教育関係者トップの方々の意識改革も必要となると思います。

また週休2日制は、子どもたちにとって「いきいきのびのび環境」でもありますので、地域での具体的活動を進めるために、「地域懇談会」等も開催して学校では出来ない「いきいきのびのび活動」を進めては如何でしょうか。社会での経験者を大いに活用することも1つの方法かと考えます。県教育委員会でも大変なご苦労をされ、いろいろ検討し進めていると思いますが、その「実りある教育」を実現する為、良い成果を期待するものです。

いままで私的考え方を述べさせていただきました。いろいろ述べましたが1つの参考意見になれば幸いです。

各部所での活躍に期待いたします。